

令和5年度 発生予察情報	発生予報第4号（概要版）	令和5年6月12日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

作物名	病虫害名	発生予報	備考
水稲	葉いもち	発生時期: 平年並 発生量: やや少	発生時期: 発生開始期
	イネドロオイムシ	発生時期: 平年並 発生量: やや少	発生時期: ふ化盛期

作物名	病虫害名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	
	モモシンクイガ	発生量: やや多	
	キンモンホソガ	発生量: やや多	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
なし	黒星病	発生量: やや少	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
きく(露地)	白さび病	発生量: 少	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第5号の発行日は6月26日(月)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月1～6日

定点調査:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月8日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (発生開始期)	発生量
葉いもち	平年並 7月第1半旬(7/1～7/5)	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、残苗の放置筆率は平年よりやや低かった。また、発病した残苗は確認されなかった。(+/ー)
- (2)平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±～+)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(±/±)

病害虫名	発生時期 (ふ化盛期)	発生量
イネドロオイムシ	平年並 6月第3半旬(6/11～6/15)	やや少

予報の根拠

- (1)定点調査における成虫の本田侵入盛期が平年並の6月第1半旬であったため、ふ化盛期は平年並の6月第3半旬と推測される。(±/)
- (2)巡回調査の結果、成虫の発生地点率は平年よりやや低く、発生量は平年よりやや少なかった。(/ー)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
エフラック

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
アイラック

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 葉いもち

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を6月20日までに実施する。
- ・予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) イネドロオウムシ

- ・防除時期であるふ化盛期をすでに迎えていると推測されるため、侵入盛期または産卵盛期の要防除密度(下表)を参考に、必要に応じて直ちに防除を実施する。

表 イネドロオウムシの防除時期(ふ化盛期)と要防除密度

防除時期※本年推定	要防除密度
6月第3半旬 (6月11～15日)	侵入盛期(本年:6月第1半旬)の成虫密度:100株当たり25頭 産卵盛期(平年:6月第2半旬)の卵塊密度:100株当たり80個

- ・本虫のチアメトキサムに対する薬剤感受性低下が確認されているため、本成分を含む箱施用剤を使用して発生が多く確認されたほ場で、今後防除を行う場合は別系統の薬剤を使用する。
※普及に移す技術 第94号 参考資料6「水稻のイネドロオウムシに対する殺虫成分チアメトキサムの薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

- ・一方で、チアメトキサムに対する薬剤感受性個体群において、ジアミド系に対する感受性は低下しておらず、効果も認められている。

※普及に移す技術 第97号 指導活用技術13「イネドロオウムシのチアメトキサム感受性低下個体群に対するジアミド系殺虫成分の感受性」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/39420/r3hukyuugi28.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロールピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月31日～6月7日

定点調査:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台6月8日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、発病葉率は平年並であった。(/±～+)
- (2)定点調査ほ(品種「ふじ」)の新梢における発病葉率は、6月上旬以降、平年並で推移している。(/±)
- (3)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
モモシンクイガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)前年の発生量が平年よりやや多かったことから、越冬量は平年よりやや多いと推測される。(/+)
- (2)20～25℃の気温が成虫の産卵に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
エフラック

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
アイラック
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.icpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)及びSDHI 剤(FRAC コード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- 果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- 発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した徒長枝や不要な徒長枝を取り除き、十分量の薬液を散布ムラのないように散布する。
- 本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

(3)モモシンクイガ

- 防除適期は産卵盛期(平年:6月第4半旬)であり、産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」を観察して産卵期を見極める。なお、フェロモントラップ調査では、例年より早い5月下旬に成虫の誘殺が確認されていることから、ほ場をよく観察し防除適期の把握に努める。
- 多発ほ場では、殺虫剤散布の補助手段として交信攪乱剤の使用も効果的である。
- 被害果(ほ場周辺のウメ、モモ、スモモ等も含む)は、次世代の発生源となるので、幼虫脱出前に取り除き、5日以上水漬けする等して適切に処分する。

(4)キンモンホソガ

- 6月以降に発生する成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- 徒長枝に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロールピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月1～6日

天候予報:仙台管区气象台6月8日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢における発病葉は確認されなかったが、果そうにおける発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/ー～±)
- (2)気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー～±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、寄生新梢率は平年並であった。(/±～+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2) 黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が 14～30 日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから、急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11)、SDHI 剤 (FRAC コード:7) の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避ける。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

(3) アブラムシ類

- ・発生が多いほ場では、他の害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月1～6日

天候予報:仙台管区气象台6月8日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
白さび病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。(/ー)
- (2)20℃以下の低温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年よりやや多かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
 - エフラック
※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
 - アイラック
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって発生が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、薬剤は葉裏にも丁寧に散布する。
- ・窒素質肥料の多用を避け、適切な肥培管理に努める。

(3) アブラムシ類

- ・一部で寄生頭数が多いほ場が確認されている。ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・ウイルス病に罹病している株はアブラムシがウイルスを媒介することで伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・ほ場周辺の雑草は、発生源となるので除草に努める。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム